

沖縄・南西諸島のどこにもいない！基地のない平和な日本を目指す総会アピール

1 沖縄は先の戦争で戦場となり、戦後は米軍の軍事占領下におかれました。復帰後も米軍基地が基本的に維持存続されている結果、沖縄の基地負担と住民の苦難は継続しています。その一方で、辺野古新基地建設の撤回と基地のない平和な沖縄を目指すたたかいが粘り強く続いています。

2 他方で米国は、冷戦後、中国を仮想敵国として「台湾有事」を想定し、それを受け日本政府は「島嶼防衛」戦略を打ち出し、南西諸島に自衛隊基地の建設を進めてきました。

日本最西端の与那国島では、2014年4月に沿岸監視部隊の建設工事が着工され、2016年3月に同部隊が開設されました。巨大レーダーが5本林立しています。今年は電子戦部隊も配備されました。

宮古島では、2019年3月に宮古島駐屯地が開設され、翌2020年にはミサイル部隊も含め、隊員数約700名に増強されました。弾薬庫が集落のわずか数百メートルの位置に設置され、ひとたび事故が起きれば多数の死傷者を出す危険が指摘されています。石垣島でも、今年3月に隊員数約570名の石垣駐屯地が開設されました。

こうした基地建設は地元住民の意思を無視して強行されたもので、他にも奄美大島、沖縄本島、さらには九州においても、自衛隊基地の建設が続いています。自衛隊と米軍の合同の軍事演習も拡大しており、爆音被害も発生しています。

今年4月、宮古島駐屯地を出発したヘリが海上に墜落し、搭乗者10人全員が亡くなりました。先月には、米軍のオスプレイが屋久島沖に墜落し、搭乗者8人全員が亡くなったとされました。戦闘機墜落の事故は後を絶たず、基地周辺の住民等への被害がいつ起きてもおかしくない状況です。

3 昨年末の安保三文書は敵基地攻撃能力の保有と大軍拡・増税を進めるという閣議決定でした。安保三文書に基づき、南西諸島ではさらにミサイル基地の建設や数千キロメートル先を射程に収める長距離ミサイルの配備が予定されていますが、米軍と一体となって中国を包囲し有事の際には米軍と一緒に中国に侵攻しようとする我が国の軍拡は、米中間の緊張を高め、戦争を誘発する危険を増大させます。そして、ひとたび軍事的衝突が起きれば、真っ先に沖縄・南西諸島が戦場と化し、島から逃げ場のない住民が犠牲になります。これを絶対に許してはなりません。今求められることは、軍事力・抑止力一辺倒の考えから脱却し、憲法9条に基づく平和的な対話を粘り強く進めていくことです。

4 本日、私たちは宮古島、石垣島、そして与那国島における自衛隊基地の現状と地元住民の方々の声を学びました。あわせて、米国の世界戦略を担うグアムにおける実態も学びました。日米軍事同盟の動向の把握だけでなく、その実態を自分の目で見て、草の根から反対の声をあげ上げていく意義、相互のたたかいに連帯する意義を共有しました。

私たちは、基地のない平和な日本を目指すため、今後も一人一人が声をあげ、協力し合いながらその声を大きく広げていく決意を表明するものです。

2023年12月9日

東京法律事務所九条の会総会